【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立嬉野中学校

1 前年度 評価結果の概要	「まなびカ」の視点から 〇基礎・基本の徹底　〇「知力・体力・人間力」の向上　〇生徒主体の活動を多く取り入れた「学びの質」の向上 「しぐさカ」の視点から 〇やるべきことをいつでもどこでも発揮できる「本物の力」の育成　〇普段の生活（基本的生活習慣）の充実 「きずなカ」の視点から 〇「多様な価値観や違い」を認め、「自他の尊重」を行動として実行できる生徒の育成　以上をさらに進めていく必要がある
2 学校教育目標	夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなびカ」「嬉中しぐさカ」「嬉中きずなカ」～
3 本年度の重点目標	1　学力の向上・・・・・・・・・・・・・「小中連携による学力向上推進地域指定事業」を活用した学力向上対策（西部型授業の徹底、学習規律・家庭学習の定着） 2　たくましさと自信の育成・・・・・・家庭や地域連携を強化した、指導・評価・支援（基本的生活習慣の定着、不登校支援） 3　人権意識の向上・・・・・・・・・・・様々な価値観や違いを認め合う人間関係づくり（人権・同和教育、道徳、学活等）

4 重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5 最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・西部型授業の徹底。 ・TTを積極的に活用し、生徒一人一人の能力に応じてきめ細かな指導を行う。	B	西部型授業については、多くの先生方に浸透しているが、コロナ禍において、話し合い活動等に苦慮している現状がある。TTについては、少人数での指導等できめ細かな指導ができている。学習活動を工夫して、生徒に自分の考えを表現させる場面を設定していく。		・		・	
	〇学習意識向上・学習規律・家庭学習の定着	〇毎日家庭学習のできる生徒85%以上 〇課題・宿題の提出率85%	・小中連携を生かした9年間の計画的な学習指導を進める。 ・自主学習について、具体的方策を提示する。 ・個に応じた課題の質や量を工夫する。 ・家庭での学習時間や生活リズムについて振り返らせる。	B	自主学習においては、自学コンテスト等を行い、生徒の意欲を喚起するとともに、学習方法のモデルを提示した。学力差に応じた自主学習への取り組ませ方として、今後習熟度別プリントを準備する。課題忘れが一定数おり、課題専用ファイルを準備するなどの方策を考え、取り組んでいく。また、家庭での時間の使い方を見直すため、タイムスケジュール表の記入を行わせる予定である。		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇人権・同和教育、道徳等を基本においた人権意識の向上 〇コミュニティ・スクールを活用した地域との連携の充実	・QUテストの考察を行い、人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・「生きる力」の教科書を使用し、人とのかかわりについて考えさせる。。 ・時代に即したLGBT教育に取り組む。 ・コミュニティ・スクールを基盤とした地域行事への積極的参加を促す。	B	QUテストの考察と研修を行った。コロナ禍における差別や偏見防止の学習や平和学習を行い人権について考えを深めることができた。制約がある中ではあるが、地域と連携した体験学習を今後も実施していく。また、LGBT教育を進めていく。		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」という回答が95%以上 〇「いじめ」の覚知を5件以下	・「いじめ」に関する定期的な指導と喚起を促し、予防と撲滅を図る ・情報リテラシーについての知識を高め、SNSの危険性への意識を高めさせる。 ・教育相談活動の充実を図る。	B	「いじめをしていない、受けていない」の全校平均が92.5%、「いじめ」の覚知が2件であった。定期的なアンケートや教育相談を通して、いじめの発見や予防に努めている。 SNSアンケートで実態調査を行った。今後は情報モラルの講和を行う予定である。		・		・	
	〇おもてなしの精神できちんとした挨拶と毎日の丁寧な掃除	・「挨拶ができている」の項目の好意的な評価が90%以上 ・「掃除を時間いっぱい意欲的に行っている」の項目で好意的評価が90%以上	・挨拶の目的と意味を知らせ、場に応じたやり方を指導する。 ・掃除では、年度初めに掃除の仕方を身につけさせ、継続的に指導を行う。	B	「あいさつや掃除がいつもきちんとできている」に対し「よくあてはまる・大体あてはまる」と回答した生徒が全学年90%以上となっている。よくあてはまると回答した生徒が50%程度のため、全校生徒が自信をもって「よくあてはまる」状態になることを目		・		・	
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上	・家庭と連携し、「朝ごはん」に積極的に取り組む。 ・給食へ感謝する気持ちをもたせる。 ・気候や感性状況を意識し、自己の健康管理を意識させていく。	B	朝ごはんを毎日きちんと食べてきている生徒は56.6%とやや低いが、75%が健康に気を付けているという意識がある。家庭と連携をして、毎日食べる習慣をつけさせたい。		・		・	
	〇望ましい生活習慣の形成	〇時間を意識して、規律ある生活をおくれる生徒85%以上	・家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーとの取組と連携し、家庭での時間の使い方の改善を図る。	B	時間を意識して、規則正しい生活が送れている生徒は、約70%とやや低い。家族と連携をして積極的に取り組ませ		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・効果的・効率的な業務推進	B	完全に実行できている職員は20%とやや低い。日常業務を振り返り、習慣化と週・月の見通しによる長期計画を促し、自己改革を図らせる。		・		・	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育の充実	〇教員の専門性と意識の向上	・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成、活用 ・UDを意識した教室環境や板書の仕方等、生徒の状況に配慮した指導の在り方等の理解	・指導方法の研修を深め、学習環境のUD化を進める。 ・特別支援委員会やケース会議を適宜開催し、学校全体での支援体制を構築する。 ・特別支援スーパーバイザーの指導助言を日々の教育活動に取り入れる。	B	見やすい板書計画やチョークの色を工夫して授業実践をしている職員は90%である。 支援を必要としている生徒の見方・考え方に差があり、個別の支援計画の作成が、支援を必要としている生徒の70%程度と低いので引き続き特別支援の研修を深めていきたい。		・		・	

●・・・県共通　〇・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	